

【第79回生涯教育講座】

膵 癌 の 集 学 的 治 療

た なか つね お かわ ぼた やす なり
 田 中 恒 夫 川 畑 康 成
 や の せい じ
 矢 野 誠 司

キーワード：膵癌，手術療法，集学的治療

要 旨

膵癌は現在でも最も予後不良のがんの一つである。発見時にはすでに遠隔転移を認めたり，膵周囲への高度の浸潤のため，切除できない症例が大部分を占めている。膵癌の根治的切除の頻度は低く，非切除例も多いので化学療法，放射線療法を併用する集学的治療が重要となってくる。本稿では2006年に公開された「膵癌治療のガイドライン」にそって，手術療法，放射線療法，化学療法について概説する。また，我々が前任地で行ってきた集学的治療の成績についても紹介する。

I. は じ め に

膵癌（膵管癌）は現在でも最も予後不良のがんの一つであり，悪性腫瘍の死亡順位は第5位である。現在では年間の死亡数は2万人を超えており，罹患数と死亡数がほぼ同数である（表1）。言い換えれば，膵癌罹患者のほとんどが死亡していることになる。この原因としては発見時にすでに遠隔転移を認めたり，膵周囲への高度の浸潤のため，切除できない進行癌症例が大部分を占めているためである（図1）。膵癌の切除率や5年生存率は低く，化学療法や放射線療法を併用する集学的治療が重要となってくる。

表1 我が国における悪性腫瘍の罹患数と死亡数

罹患数 (1996)		死亡数 (1999)	
臓器	人数	臓器	人数
1 胃がん	102,945	1 肺がん	52,151
2 大腸がん	85,054	2 胃がん	50,676
3 肺がん	56,607	3 大腸がん	35,363
4 肝臓がん	34,706	4 肝臓がん	33,816
5 乳がん	29,448	5 膵臓がん	18,654
6 子宮がん	17,433	6 胆道がん	14,894
7 膵臓がん	16,987	7 食道がん	9,991
8 胆道がん	15,767	8 泌尿器がん	9,514

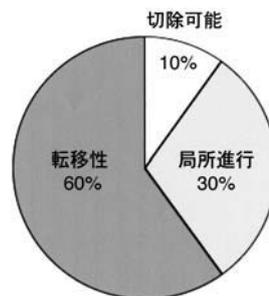


図1 膵癌の発見時における進行度別の頻度